２０１８年（平成３０年）１０月１９日　金曜日
東奥日報　１９面　掲載

9回ダメ押し 光星頂点

第71回
秋季東北高校野球
最終日

粘る盛岡大付 突き放す

第71回秋季東北地区高校野球大会は最終日の18日、秋田市のこまちスタジアムで決勝を行い、本県第1代表の八学光星が盛岡大付（岩手第1代表）を5－3で破った。八学光星は一回表、1死二塁から3番武岡が右越えに2点本塁打を放ち先制した。直後に同点に追いつかれたものの七、九回に敵失や安打で追加点を奪い、粘る盛岡大付を振り切った。

（秋村有香、工藤俊介）

▽決勝（秋田市こまちスタジアム）

八学光星	200	000	201	5
盛岡大付（岩手）	200	000	100	3

（八）山田、横山、後藤－大山
（盛）阿部－島上
▽本塁打　武岡（八）
▽三塁打　武岡（八）▽二塁打　小野寺、平賀、島上（盛）
▽暴投　横山（八）

【評】八学光星は初回、主将武岡の本塁打で2点を先制。以降六回までは得点圏に再三走者を送るも、あと1本が出ず苦しんだ。しかし七回、9番後藤の三盗が敵失を呼ぶなどこの回2得点。九回は武岡の三塁打でダメ押しの1点を奪った。投げては先発山田が三回途中までに被安打6、2失点と打たれたが、以降は横山、後藤の継投で4安打1失点に抑え、盛岡大付打線を抑えた。

「もっと強くなれる」

○…明治神宮大会の出場権とともに、センバツ出場を手中に収めた八学光星。仲井監督は「チーム全員で勝ち取った優勝。一人一人が頑張ってくれた」とナインをたたえた。

東北を制したものの、チームが最終的に目指すのは深紅にたなびく夏の甲子園の優勝旗。「結果的に勝ちはしたが、大事な場面でのエラーも多かった。まだまだこれから、もっと強くなれる」。指揮官は日に焼けた顔でナインを見やり白い歯をのぞかせた。

【八学光星】			打	安	点	振	球
[illegible]	伊藤	[illegible]	3	2	0	1	1
[illegible]	[illegible]	[illegible]	3	0	0	0	1
[illegible]	武岡	[illegible]	5	2	3	0	0
[illegible]	[illegible]	[illegible]	5	1	0	0	0
[illegible]	大山	[illegible]	2	0	0	1	1
[illegible]	下山	[illegible]	4	2	0	0	0
[illegible]	[illegible]	[illegible]	3	0	0	1	1
[illegible]	[illegible]	[illegible]	3	0	0	1	0
7	[illegible]	[illegible]	1	0	0	0	0
①	山田	②	1	0	0	1	0
1	横山	②	1	0	0	0	0
1	後藤	②	1	0	0	0	1

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球
3	1	1	1	8	32	7	3	5	5

投手	回	打	安	振	球	失
山田	2⅔	13	6	1	1	2
横山	2⅓	10	0	1	2	0
後藤	4⅔	20	4	1	2	1

【盛岡大付】			打	安	点	振	球
④	峰	②	4	1	0	0	1
⑧	松原	②	3	0	0	1	1
⑨	岡田	②	5	2	0	1	0
⑤	小野寺	②	4	2	1	0	0
⑦	平賀	②	3	2	1	0	1
③	小川	②	5	2	1	0	0
⑥	佐々木	②	4	0	0	0	1
②	島上	②	3	1	0	0	1
①	阿部	②	3	0	0	1	0

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球
4	2	2	0	13	34	10	3	3	5

投手	回	打	安	振	球	失
阿部	9	40	7	5	5	5

【決勝・八学光星－盛岡大付（岩手）】一回表、八学光星は1死二塁、武岡の右越え2点本塁打で2－0と先制する＝秋田市こまちスタジアム

初回2ラン 9回三塁打
主将武岡 大仕事

ヒーロー

初回1死二塁の好機。甘く入った4球目の高めのスライダーをあらん限りの力で振り抜いた。打球は、右翼手の頭上を越え芝生席へ。武岡の2点先制弾が八学光星を勢いづけた。九回にもダメ押しの適時三塁打を放ち、主将の仕事を大舞台できっちりとやってのけた。

「個人の結果より、チームが勝つことが全て。楽しんでやってこい」。準決勝・花巻東戦で無安打に終わった武岡に、前主将の長南からLINE（ライン）でメッセージが届いた。チームを引っ張らなくてはという重圧から、思うようなバッティングができなくなっていた。

仲井監督は武岡を「口数は少ないが、責任感は人一倍強い。実力も兼ね備えた素晴らしい選手」と評する。気持ちのこもった粘り強いバッティングを買い、今秋から3番打者を任せている。

責任感が空回りし、準決勝は大事な場面で打てなかった。しかし、尊敬する先輩の一言が、気持ちをすっと楽にしてくれた。決勝を楽しむ余裕が生んだ記念のホームランボールは自室の「宝物ボックス」にしまうという。

「優勝はうれしいが課題も見つかった。甲子園で勝てるチームになれるよう練習に励みたい」。力強く話すその目に、主将の自覚がにじんでいた。（工藤俊介）

5回裏、盛岡大付1死一、三塁で、八学光星の主戦・後藤が救援登板。無失点で切り抜けた

3投手継投 後藤で締め

八学光星は良きライバル関係にある3投手の継投で決勝を乗り切った。準々決勝、準決勝をコールドで勝ち上がってきた盛岡大付の強力打線を3点に抑え込んだ。

初回、今大会初登板の先発・山田が、甘く入った球をことごとく打たれ3番打者から4連打を浴びた。「情けないピッチング。打たれてから気持ちが崩れてしまった」

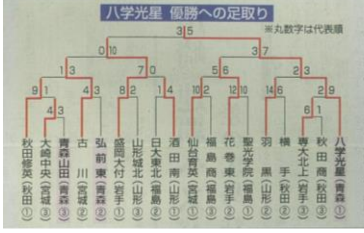
三回途中、無死一塁で引き継いだ2番手横山は三回、四回と無安打無失点の好投。だが「緊張で腕が振れていなかった」。五回に二つ目の四球を出し交代、主戦後藤がマウンドに立った。

準決勝まで2試合完投の後藤。想定よりも早く登板したが「頑張ってくれた横山のために抑えたかった」。

七回に四球で1死満塁のピンチを招いたが、相手のバントミスで打ち上がった打球を落ち着いて捕球。三塁に送球して飛び出した三走を仕留め、危機を脱した。「走者を出してもアウトを一つずつ取れば点は入らない」と冷静さを保ち続け、エースの貫禄を見せた。

センバツ開幕まで時間がある。「自分に自信が持てるよう練習を全力で取り組む」（山田）、「チーム全員に信頼される投手になる」（横山）、「（背番号）1を守れるよう頑張りたい」（後藤）と、互いに成長を誓った。（秋村有香）

八学光星　優勝への足取り
※丸数字は代表順



【写真左】5年ぶりに東北を制し笑顔を見せる八学光星の仲井監督【同右】東北一に輝き喜ぶナイン

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです